

## 資料提供のおねがい

中 沢 和 子 (短大)

ご協力をお願いいたします。

史料室委員会はこのように仕事を始めましたが、ここでぜひ皆様にご協力をお願い申し上げたいのです。東洋英和 100 年の歴史を物語る資料をお持ちの方、ご存知の方は、委員会にどうぞお知らせ下さいませんか。お願いしたいものは次の通りです。

こんなものを

### ◎カナダミッションについて

残念なこと、創立以来のカナダミッションについて、殆ど資料がないのです。先生方のお写真お役目やお人柄をしのぶ手紙、記念品、記録などお持ちの方はないでしょうか。

### ◎学校の規約、規則を知るもの

卒業証書、卒業写真、資格証書、学則、生徒心得、寮規則、証明書、通知など。

### ◎教育内容を知るもの

教科時間割、成績通知表、教科書、テキスト、ノート、作文、授業内容を示す写真など。

### ◎式典や行事の記録

案内状、プログラム、報告書、写真など。

### ◎風俗をあらわすもの

生徒・職員・父母の服装や習慣を知ることができる写真、衣類・持物 学用品などの実物。

どの時代まで

上記のものは、昭和35年以降はほぼ学院で保管できています。第二次大戦中と戦前のものについて、特にご協力をお願いします。

こんなふうにして

資料には年代、所持者、製作者などできるだけ書き添えて下さい。写真は撮影の場所、人物の名前などわかる限り別紙に書き添えて下さい。

大切なものは

資料には、かけがえのない大切なものもあると存じます。その時はしばらく拝借して委員会でコピー・写真をとり、間違いなくお返し致します。またご寄贈頂けるものは、短大図書館内史料室で管理し、長く保存します。

お知らせは

史料室委員は幼1人・小・中・高・短大に各2人います。どこでもお気軽な部にお知らせ下さい。東光会、各部同窓会でもお取次ぎします。

ぜひこの際に

もしこの際に、思い出の手文庫、お形見の品々、棚の奥、たんすの底などお改め頂くことができれば、この上ない幸いと存じます。

### あとがき

委員会が発足して2年を経たが、国内・国外にある史料を得ることはなまやさしいことではなく、90余年の歴史の大きさと重さを思わされる。史料委員会が、まずその入口にたつたところをこの1号でご紹介することになった。主の恵みと導きの中を歩んできた東洋英和女学院の姿が、史料の形をとって神のみ前に捧げられるようにしたいと念じている。この紙面を2号、3号とおもしろ味のあるものにしていきたい。(倉本・野田一小学部)

## "史料室だより" 発刊にあたって

室長 齋藤 浩 二

東洋英和女学院史料室委員会が設置されたのは昭和50年4月でした。勿論それ以前にも、学院の史料の散逸を防がねばならぬこと、各所に眠っているであろう貴重な史料を掘り起こし体系的に収集整理しなければならぬことは意識されており、例えば長野元院長が黒川教頭に託された何点かの重要史料が封筒に入れられたまま中高部に保存されています。また石井前院長がその在任中、カートメル先生以下歴代の校長・院長の事蹟を景仰ししばしばそれを語られたことは記憶に新しいところです。いずれも、先人達の志向、足跡の上に後進の我々を励まし、正し、新しい発想を示唆してやまない力を見出していらっしやっしたるでしょう。史料室委員会は、石井先生在任中最後の年に設置されたものでした。

史料室委員会二年余の歩みは摸索の一語に尽きます。初仕事は短大図書館内の一室の半分を史料室として貸して頂くことでした。月一回の定例委員会をきめました。全員が揃うことは困難でした。青山学院には完備した史料室があることを耳にし、委員の何人かがこれを見せて頂きに出かけ大きな刺激を受けました。都の公文書館に設立願以下、都(府)へ提出した文書が残っていることを知り、設立当初のものだけは写してきました。カナダミッションの年会報告書を求めて関西学院

図書館に出向きましたが、これは東洋英和に関する年度を発見できず、将来の調査課題として残ってしまいました。上田朝、新井竹両先生をお招きして戦前の学校の様子についていろいろお話を伺ったこともあります。旧教職員の思い出を残すことはこれからも続けなければならない大切な仕事のひとつと考えています。

現在までに残されている史料をどのように発掘し、どのようなシステムで整理するかということと並んで、もう一つ重要な課題は、今も毎日毎年生まれている新しい史料を、各部ではどのように保存して頂き、史料室としてはどの部分を直接に収集するか、どの史料はどこにあるということを含体的に把握するにはどのような方法をとったらよいかということです。昨年度から委員会内で史料のカード化をめざし、分類記号を考えてきたのもそのためです。この点は一応のめやすをたて終わり、カード作成を開始しています。

この仕事に関与して痛感することは、総じて近年になるまで基本的な史料が十分に保存されていないことです。心からご協力をお願い致します。

~~~~~ 伝統によって  
培われた力が、主の賜う叡知の光に照らされる時、われわれはそこに新たな希望と確信をもつことができる。(九十年小史P.19より)